

## 第1章 調査の目的と実施方法

### 1.1 調査の目的と内容

本調査は平成15年度調査、平成16年度調査を踏まえ、青森～ウラジオストク間の国際フェリー（RoRo船を含む）航路開設可能性を検討し、青森港の経営戦略に資することを目的とするものである。

平成15年度は、北東アジア諸国（日本、ロシア、中国、韓国、北朝鮮、モンゴル）間の国際フェリーネットワークの現状を整理し、青森港とロシア極東地域港湾が国際フェリーで結ばれた際に、青森からロシアに向けての主要輸送貨物となる可能性が高い、中古車輸出について、その需要と背後圏を調査した。

平成16年度は、平成15年度調査に基づき、中古車販売企業のヒアリングを行い、また、対ロシア中古車輸出の実態を把握し、先進事例として富山県の中古車貿易について現状を調査した。さらに、フェリー開設に向けて、ロシア側関係者及び青森側の関係者と意見交換を行い、実現のための問題点、今後の取組みを明確にした。

2年度に亘るこうした調査を基に、青森港～ウラジオストク港間の国際フェリー（RoRo船を含む）航路について、トライアル寄港の実施を視野に、短中期的視点から実施可能性を検討し、港湾経営戦略を構築することを目的に、調査を実施した。今回の調査では、より詳細な貨物・旅客量を推定し、他航路の状況を参考にしながら、本プロジェクトの採算性を検討した。

### 1.2 調査対象・方法

過去の調査を経て、本調査の対象航路は、青森港とウラジオストク港を結ぶ航路とした。この際、それぞれの港湾の背後圏としては、ウラジオストク港の場合はロシアの極東地域を中心とし、加えて中国黒龍江省もその対象とし、青森港の背後圏としては東北地域はもちろん東京も含めるネットワークを検討した。

本調査を実施するに当たり、ロシア側の状況把握と協力体制の強化を目指し、ロシア側の研究機関の協力を仰ぐこととした。協力をお願いした機関はロシア極東海運研究所（Far-Eastern marine research, design and technology institute, FEMRI）である。FEMRIとの共同調査によって、ロシアの現状把握と現地ヒアリング調査を行うことができた。

共同調査の内容は次の通りである。

ERINAでの第1回共同作業 2005年11月6日～11月13日

現地ヒアリングの実施 2005年11月13日～11月20日

ERINAでの第2回共同作業 2005年12月4日～12月11日

平成17年度第1回青森フォーラムの開催 2005年12月8日（於 青森）

こうした現地調査及び国内調査に基づき、詳細な貨物・旅客量を推定し、他航路の状況を参考にしながら、本プロジェクトの採算性の検討を行った。

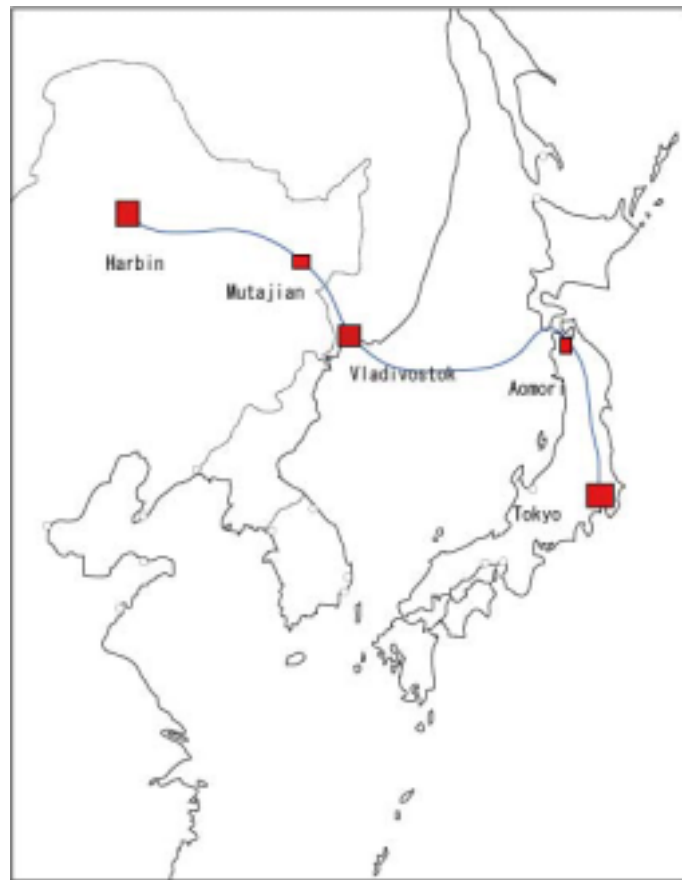


図 1.2.1 本調査の対象航路とその背後圏